

こんにちは！レンタカー協会ニュースレターをお届けします。このニュースレターでは、最新の情報や、皆様のお困り事、そして今後のイベントなど、盛りだくさんの内容をお届けいたします。どうぞ一読いただき、今後の動向を把握し、さらなる連携を深めていただければ幸いです。

Topic 01 ご挨拶



一般社団法人
札幌レンタカー協会 会長

成田 修朗

札幌レンタカー協会 成田です。
大変遅くなりましたが、本年も宜しくお願い致します。
また日頃から 当協会の活動に、ご支援とご協力いただいております 事 厚く御礼申し上げます。
そしてまた昨年は、当協会の新独立事務所設立に沢山のご支援とご協力をいただきました事、重ねて 御礼申し上げる次第でございます。
当協会の新体制をご紹介させていただきます。
まず、専任者の顧問 明石真幸、事務局 内藤玲の2名と、
副会長 小池賢一氏、同じく副会長 長谷川潤氏
そして会長代行の佐藤議氏と私、成田となります。
※今年の協会のテーマは、スマイル◎ & コミュニケーションです。
会議形式ではない、ディスカッションや食事を取り入れ、全員が他人ではなく、仲の良いお友達になれるような、そして私達も皆様に寄り添って少しでもお役に立てるよう 力を合わせて頑張りたいと思いますので、引き続き ご協力の程宜しくお願い致します。



一般社団法人
札幌レンタカー協会 会長代行

佐藤 議

(一社)札幌レンタカー協会の佐藤でございます。
平素よりご協力いただいておりますこと感謝申し上げます。
さて、昨年末より協会事務所の開設、そして新たな事務局が選任されたことにより、今まで以上に会員各社への情報提供がスピード感をもって実施できることを目指しているところでございます。
また、昨年に引き続きレンタカー事業の課題ある
① 人材不足
② 重大事故防止
③ 回送問題
について、改善に向け取り組んでいるところでございます。
会員各社の更なるご協力をお願い申し上げます。
また、情報提供方法については、広報委員会より札幌協HPを通じ対話式でリアルに発信して参りますので、不明な点・疑問点などお知らせいただければ、諸官庁・全レ協などの協力を得ながら回答して参ります。
会員各社のご支援とご協力をお願い申し上げます。



一般社団法人
札幌レンタカー協会 副会長

小池 賢一

札幌レンタカー協会の小池でございます。
この度「NEWSLETTER Vol.1」の配信にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
先ずは、日頃から皆様には多大なるご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。
引き続き本年も何卒よろしくお願い申し上げます。
この度の協会通信の趣旨といたしましては、昨今、業界を取り巻く環境が大きく変化していくなか、共通する新たな悩みや問題点等をタイムリーに共有し、皆様とディスカッションしながら、協会として少しでもお役に立てる情報を早期にお届けできればと思っております。
特に、観光需要が旺盛な北海道にとって、ホテル不足や各観光地のオーバーツーリズム等、観光に携わる事業に関し様々な問題点が指摘されているなか、私たちレンタカー業界におきましても、「安全に」「健全な」事業を今後も継続できますよう、皆様と力を合わせ協会活動に努めてまいりたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



一般社団法人
札幌レンタカー協会 副会長

長谷川 潤

札幌レンタカー協会副会長を仰せつかっております長谷川と申します。
会員の皆様におかれましては、平素より当協会業務に関し、多大なるご理解とご協力を賜っておりますこと、衷心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。
さて、レンタカー業界においては、今後も雇用の確保や高止まりする原価など厳しい経営環境が続くことが想定されますが、これまで以上に、会員の皆様にとって有益な情報の提供や課題解決など、お役に立てるような新たな体制のもと協会運営を進めて参る所存でございます。
会員の皆様におかれましては、引き続きご指導並びにご支援くださいますよう、何卒お願い申し上げます。

Topic 02 バックカントリーでの事故が増加 – レンタカー事業者としてできること

近年、バックカントリー（管理区域外の山岳地帯）でのスキーやスノーボードを楽しむ方が増えています。しかし、それに伴い遭難や雪崩などの事故も増加しており、各地で救助活動が行われています。

レンタカー事業者として、私たちはお客様の安全に配慮し、事故防止の意識を高めることが求められています。特に、レンタカーを利用してバックカントリーに向かうお客様には、適切な情報提供や注意喚起が重要です。

お客様の自由な旅をサポートする一方で、安全確保への意識を高めることが求められます。事故を未然に防ぐための一言が、お客様の命を守ることにつながるかもしれません。

引き続き、安全に配慮した対応を心掛けましょう。

QRコードを読み取ることで、バックカントリーの安全啓発サイト（英語版）にアクセスできます。ぜひご活用ください。

